

社会、地理歴史、公民における 資質・能力の育成等について

議題1

目標及び高次の資質・能力等の在り方について

議題2

系統性・体系性等の整理について

議題 1

目標及び高次の資質・能力等の在り方について

論点 1 小・中・高等学校の目標及び新しい「見方・考え方」について

論点 2 小・中学校の高次の資質・能力の在り方について

目標及び高次の資質・能力等の在り方について

1. 目標及び新しい「見方・考え方」について

- ・ 前回WGでの意見を踏まえ、目標及び新しい「見方・考え方」について、8から11ページのとおり整理してはどうか。

2. 高次の資質・能力について

(1) 教育課程企画特別部会における議論

- ・ 社会科等ワーキンググループにおいては、これまで目標や見方・考え方、高次の資質・能力について学校種・分野・科目別に議論を重ね、第4回会議においてとりまとめた案を、教育課程企画特別部会に提示したところ。

- ・ 第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況の一覧が示され、論点整理で示された資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえた検討がなされたところ、以下の7つの観点については共通して引き続き精査を要すると整理されている。

そのうち、「高次の資質・能力」の検討に当たって以下の観点を踏まえ、改めて検討いただきたい。【12～40ページ参照】

①資質・能力の深まりの可視化

②分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

③「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

④今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化

⑤用語の一層の整理・検討

⑥趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討

⑦構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

(2) 検討の方向性

- ・ 小・中学校の高次の資質・能力について、「1. 教育課程企画特別部会における議論」①と②を踏まえ、さらに内容のブラッシュアップを図る方向で検討してはどうか
- ・ 特に、小学校において、学年区分の骨格は維持しつつ、高次の資質・能力の構造を「市区町村（仮称）」「都道府県（仮称）」「国（仮称）」「世界・国際社会（仮称）」に分類する方向とし、「統合的な理解」や「総合的な発揮」の内容についても併せて整理する方向で検討してはどうか。

※ 議題2で議論する中学校社会科の分野横断の単元に関する高次の資質・能力は、次回以降に検討する予定。

なお、教育課程企画特別部会の議論を踏まえ、中学校社会科については、以下のとおり整理することとしてはどうか。

➤ 地理的分野：

教育課程企画特別部会での②の観点を踏まえ、世界と日本の地域構成等に関する記載事項について整理

➤ 公民的分野：

教育課程企画特別部会での②の観点を踏まえ、視点や概念的な枠組みに関する記載事項について整理

資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）

- 各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況を一覧化し、本部会の論点整理で示した資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえ検討したところ、以下1～7については共通して精査を要するのではないかと
- ✓ これら以外に、各WGに対して個別に指摘すべき事項や、各WG共通で検討を要する事項はないか
- ✓ 本日の議論を踏まえて、引き続き総則・評価特別部会や各WGにおいて資質・能力の構造化の具体についてさらに検討を深めることとしてはどうか

1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような確に示しているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

- 総則・評価特別部会においては、「高次の資質・能力」の全体を暫定的に整理した後、それらを基に各教科等WGにおいて個別の資質・能力の検討を行う際の方向性として以下を示した。（【資料1】P7）

「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるか」といった視点からも検討」

- 今後、上記の方向性に加え、下記の留意点も踏まえつつ、各教科等WGで個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を進めてはどうか
 - ✓ 暫定的に現行学習指導要領の内容に基づき、高次の資質能力を整理してきたWGもあることから、今後の検討にあたっては、現行の指導内容が全て等しく重要であると安易に判断しないように留意する必要
 - ✓ 個別の資質・能力を検討していく中で「高次の資質・能力」の在り方についても往還しながら更に改善を図っていく必要

その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

（「高次の資質・能力」について）

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないかと
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要がある、そのためにも、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

（学校段階の特性を踏まえた共通性の確保について）

- 多くの教科を指導する小学校の教員から見ると、教科間の記載にばらつきが大きすぎると理解が進まない恐れ。各教科等の特性を踏まえつつも、各学校段階では一定の共通性を持って見られるよう抽象度の高さを含め一定の平準化が必要。他の学校段階や他教科等の表現も参考にしつつ、当該学校段階の発達段階を踏まえた「深い学び」の姿を具体的にイメージできるようになるかという共通の視点をもって検討が必要

（資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

- 並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要

4. 今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化

- 「高次の資質・能力」を基にした今般の構造化・表形式化は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」について学びの深まりを可視化するとともに、それらを一体的に育成する学習の在り方を示し、教師一人一人が「深い学び」を具現化しやすくすることを目指すもの。
- 一方で、整理・構造化された資質・能力について理解を深めることと、それらを活用して実際の単元・授業づくりに活かすこととの間には依然としてギャップがあるものと考えられる。「資質・能力」の深まりを捉えた後、それを実現する単元・授業をどのように構想し、実践に繋げていけばよいかを考えることは、特に経験の浅い教師にとっては、難しい場合もある。
- そのため、構造化・表形式化する学習指導要領について、単元・授業づくりのこういった場面でどのように活用することで授業改善に繋げていくことができるのか、各教科等ごとに参考イメージを示すことにより、指導主事や経験が豊かな教師が、経験の浅い教師を指導する際のイメージを共有できるようにすることを検討してはどうか。 (補足イメージ参照)
- ※ このことに関わって、前回改訂時の中教審答申においては各教科等固有の「深い学び」を実現する学習過程を精緻に示す試みが行われたが、多くの要素が盛り込まれ、教科等によっては複雑で実現が難しいものとなったとの指摘もある。また今般、個別最適な学びの実現の観点も踏まえ、「個に応じた学習過程」の充実を目指すこととしている。これらを踏まえると、今回は単一の学習過程を整理するのではなく、子供一人一人が深い学びを実現するための専門職としての教師の多様な単元・授業づくりを支えるという視点から、上記のように、構造化・表形式化された学習指導要領の活用イメージとして、参考資料を示すことが適当ではないか。
- ※ その際、このイメージはあくまでも参考の一つとして示し、現場の実践を過度に縛るものにならないよう留意が必要。実践者が子供の実態を踏まえて、多様で豊かな単元・授業づくりを行う際の足掛かりの一つと位置づけてはどうか。

5. 用語の一層の整理・検討（高次の資質・能力）

- 企画特別部会では、今回の学習指導要領の一層の構造化の核となるものとして、「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力・判断力・表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んで整理していたところ。
- これらの用語について、総則・評価特別部会では、新たな用語が増えることを避け、一人一人の教師が現行の学習指導要領の延長線上に今回の構造化を理解することができるようにする観点から、資質・能力の深まりを示すものを「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」、それらをまとめて「高次の資質・能力」と呼ぶことと整理した。 (【資料1】P3参照)
- 「統合的な理解」「総合的な発揮」の呼称については、今回の構造化の趣旨の理解を進める上で効果的に働いている一方、「高次の資質・能力」という語については、各教科等WGでは、学校現場には単に「レベルの高い高度な資質・能力」として受け取られる等の誤解を招くのではないかといった懸念もあったところ。
- こうしたことも踏まえ、「高次の資質・能力」という用語については、今回の構造化を検討・議論する上の「足場」としては重要であり引き続き使用することとしつつも、実際に学習指導要領を告示する段階に向けて、更に適切な語があればそれを用いることとするか、または告示文の中ではあえて用いない（「統合的な理解」「総合的な発揮」のみで説明）こととしてはどうか。

6. 趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討

- 企画特別部会の論点整理においては、今般の構造化の趣旨を踏まえて教科書の内容は「統合的な理解」「総合的な発揮」をつかみ取りやすくなるものに精選していくとともに、その分量の在り方に関しては、調整授業時数制度の下で、調整後の時数で十分に指導可能なものとなるよう検討すべきとの方針を示している。
- 一方で、教科書会社からは、そうした「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい教科書は具体的にどのようなものかイメージが湧きにくいという声もあり、総則・評価特別部会においては、各教科等WGにおいて「高次の資質・能力をつかみやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う」方針が示されているところ。（【資料1】P7）
- これらの方針を踏まえつつ、各教科等WGにおいては、
 - 3. に示す個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を着実に進めていくとともに、
 - 「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい単元・授業づくりに資する観点から、現在の教科書のこういった内容を精選対象とすることが考えられるか、またこういった構成上の工夫が考えられるかといった点についてのアイデア出しを行い、教科書会社における教科用図書の編纂の参考となるよう検討を進めることとしてはどうか。
- 中央教育審議会におけるこれらの検討状況も踏まえつつ、調整授業時数制度を活用して標準を下回って時数を設定した後の授業時数でも、教科用図書の内容を適切に取り扱った指導が可能となるような教科書編纂を促すための仕組み作りなどについて、検定調査審議会において具体的に検討することとしてはどうか。

7. 構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- これまで、学習指導要領の構造化・表形式化と、デジタル化、調整授業時数制度をはじめとする柔軟な教育課程編成を促す仕組み、個に応じた学習過程の充実については、それぞれ一定の検討時間を要するものであったため、トピックを分けて具体化の議論を進めて来た。
 - もとより、これらの方策はいずれも密接に関連している（※）ものであることから、トピックごとに一定の具体化が進んできた現段階において、相互の関係を改めてしっかりと可視化し、学校現場が一体的に理解できるよう示していくことが重要ではないか。
- （※）相互の密接な関連の例
- ・「高次の資質・能力」に基づく構造化・表形式化は、各教科等の「深い学び」を実現しやすくするために重要であるだけでなく、各学校が子供の実態に応じた柔軟な教育課程を編成したり、個に応じた多様な学習過程を充実する中にもあっても、外してはならない教育課程の「軸」を明確化する役割も有している。
 - ・「高次の資質・能力」で示した教育課程の「軸」をおさえつつ、子供の実態に合わせた柔軟な教育課程を編成・実施していく上では、系統性を確保しながら多様な実践アイデアを練る必要がある。このため、学習指導要領に示された内容を様々な角度から比較・参照して理解することや、データで出力して進捗管理に活用することを可能とするなど、学習指導要領のデジタル化による利便性の向上・活用幅の拡大が効果的と考えられる。
 - ・多様な子供一人一人に深い学びを実現していくためには、調整授業時数制度を用いて学校レベルでの教育課程を柔軟化することも重要であるが、その先に個々の児童生徒のレベルでの学習過程の質が個に応じたものとして改善していくことが求められる。そのためには、学習方略の指導等を含め、個に応じた学習過程の充実を支える方策の充実が重要となる。
- そのため、今後総則・評価特別部会において、これらの方策がどのように相互に関連しているかを一層明らかにしつつ、その結果としてどのような単元・授業づくりを目指そうとしているのかを取りまとめにおいて可能な限り示していくことが考えられるのではないか。

【小学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案）

※第4回WGからの修正箇所のみハイライト

下線：現行からの変更点

目標

柱書

よりよい社会の形成に向けて、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。 様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う。 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。 考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、よりよい社会を考え見通しを立てたり、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。 多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

※学年別目標の在り方について

- 小学校の学年別目標については、総則・評価特別部会の議論において、表形式化に当たり、学年別に目標を定めて内容を整理すること
はせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとされたことを踏まえて、提示しないこととはどうか。

見方・考え方

- 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【中学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案）※第4回WGからの修正箇所のみハイライト

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

中学校

社会科	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
地理的分野	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>地理に関する課題</u> を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
歴史的分野	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>歴史に見られる</u> 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
公民的分野	よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 <u>現代社会に見られる</u> 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 調査や諸資料から確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解する。 調査や諸資料から<u>地理に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、<u>地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、多面的・多角的に考察する力を養う。 地理的な課題の解決に向けて<u>公正に</u>選択・判断する力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の<u>地域に関わる諸事象</u>について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる課題</u>を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しよう</u>とするものの大切さについての自覚などを深める。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する。 諸資料から<u>歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に関わる事象の意味や意義、<u>伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して</u>、多面的・多角的に考察する力を養う。 歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて<u>公正に</u>選択・判断する力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる課題</u>を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、<u>国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しよう</u>とするものの大切さについての自覚などを深め、<u>国際協調の精神を養う。</u>
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、<u>個人と社会との関わりを中心に理解を深める。</u> 諸資料から<u>現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を<u>現代の社会生活と関連付けて</u>多面的・多角的に考察する力を養う。 現代社会に見られる課題について<u>公正に</u>判断する力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会的事象について、<u>現代社会に見られる課題</u>を見だし、自らの学びを振り返りながら<u>解決を視野に</u>主体的かつ協働的に<u>社会に関わり</u>ようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、<u>各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うこと</u>の大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

- 【地理的分野】 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史的分野】 社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【公民的分野】 社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・地理歴史科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案） ※第4回WGからの修正箇所のみハイライト

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

高等学校

高等学校

高等学校

高等学校

高等学校

高等学校

地理歴史科
地理総合、地理探究
歴史総合、日本史探究、世界史探究

よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

よりよい社会の形成に向けて、広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、歴史に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地理歴史科	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 調査や諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 社会に見られる課題の解決に向けて構想する力を養う。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
地理総合	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、<u>地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 地理的な課題の解決に向けて構想する力を養う。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる</u>課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。
地理探究	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、<u>地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して</u>、<u>系統地理的、地誌的に</u>、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 地理的な課題の解決に向けて構想する力を養う。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる</u>課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。
歴史総合	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 諸資料から収集した歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、<u>時系列、推移、類似と差異、因果関係</u>や<u>現在とのつながり</u>などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、<u>他国や他国の文化</u>を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
日本史探究	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、<u>地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて</u>理解する。 諸資料から収集した我が国の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、<u>伝統と文化の特色などを</u>、<u>時系列、推移、類似と差異、因果関係</u>や<u>現在とのつながり</u>などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、<u>他国や他国の文化</u>を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
世界史探究	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、<u>地理的条件や日本の歴史と関連付けながら</u>理解する。 諸資料から収集した世界の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、<u>時系列、推移、類似と差異、因果関係</u>や<u>現代世界とのつながり</u>などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、<u>他国や他国の文化</u>を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

【地理総合、地理探究】社会的な事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【歴史総合、日本史探究、世界史探究】社会的な事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・公民科】目標及び新たな「見方・考え方」イメージ（案） ※第4回WGからの修正箇所のみハイライト

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

高等学校	公民科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	公共	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>
	倫理	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>
	政治・経済	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現実社会に見られる複雑な諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
高等学校	公民科	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について、<u>事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。</u> <u>合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</u> <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、<u>現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</u> 	
	公共	<ul style="list-style-type: none"> <u>現代の諸課題を捉え考察し、</u>選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 <u>諸資料から収集した、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>現実社会の諸課題の解決に向けて、</u>選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、<u>事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。</u> <u>合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</u> <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、<u>現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</u>
	倫理	<ul style="list-style-type: none"> <u>古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。</u> <u>諸資料から収集した、人間としての在り方生き方に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力を養う。</u> <u>現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</u> <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。</u> <u>多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</u>
	政治・経済	<ul style="list-style-type: none"> <u>社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。</u> <u>諸資料から収集した、社会の在り方に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。</u> <u>構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</u> <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現のために<u>現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</u>

見方・考え方

- 社会的な事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

(1) 小学校社会科

私たちの生活と市区町村 - 市区町村の様子 -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所による違いがあること、時間の経過とともに移り変わってきたことなどを基に成り立っていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市区町村の地理的環境や移り変わり、人々の生活の変化について考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 身近な地域や市区町村の様子	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などを、観察・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、場所による違いを考え、表現する。
(2) 市の様子の移り変わり	自分たちの市は、時間の経過に伴い、交通網が整備されてきたこと、公共施設などが建設されてきたこと、土地利用の様子や人口が変化してきたこと、生活で使う道具などが改良され変わってきたことなどを、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、それらの変化を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と市区町村 - 地域に見られる生産や販売の仕事/地域の安全を守る働き -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることや消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めようと工夫して行われていることを理解する。</p> <p>○地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。</p>	<p>○位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生産や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。</p> <p>○人々の相互関係などの視点に着目して、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。</p>
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(3) 地域に見られる生産や販売の仕事	<p>(ア) 地域には様々な生産に関する仕事があり、産地は市内に分布していること、一定の順序や工程があること、地域の人々の生活に使われていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ) 販売の仕事は、様々な工夫をして販売していること、商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、関連を考え、表現する。</p> <p>(イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する。</p>
(4) 地域の安全を守る働き	<p>緊急時は、関係機関がネットワークを活用して相互に連携すること、緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、関係機関などが協力していること、地域の人々が対処していることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p>	<p>施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と都道府県 -都道府県の様子-

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○自分たちの都道府県は、地形や産業など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることなどを基に成り立っていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 都道府県の様子	国内における自分たちの県の位置、隣接する県との位置関係、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。また、各都道府県の名称や日本地図上の位置などを理解する。	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地理的環境の特色を考え、表現する。
(2) 県内の特色ある地域の様子	県内には、地場産業が盛んな地域や国際交流に取り組んでいる地域、自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域など特色ある地域があること、それらの地域では、特色あるまちづくりを進めたり、人々の協力により観光などの産業を発展させたりしていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。	特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、県内の地域の特色を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と都道府県 - 人々の健康や生活環境を支える事業/自然災害から人々を守る活動 -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持と向上に役立っており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。</p> <p>○自然災害から人々を守る活動は、これまで関係機関や地域の人々が連携して対処してきたり、今後の災害に対して様々な備えをして、人々を自然災害から守っていることを理解する。</p>	<p>○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。</p> <p>○時期や時間の経過、人々の相互関係などの視点に着目して、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。</p>
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
<p>(3) 人々の健康や生活環境を支える事業</p>	<p>(ア) 安全確保に努めていることや安定的に供給できるように進められていること、現在に至るまでに供給する仕組みが計画的に改善されてきたことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ) 廃棄物を安全かつ衛生的に処理していることや県内外の関係機関が相互に連携して処理したり再利用したりしていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスを供給する事業が果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物を処理する事業が果たす役割を考え、表現する。</p>
<p>(4) 自然災害から人々を守る活動</p>	<p>県内で過去に自然災害が発生していること、発生した際には県や市、関係機関や地域の人々が協力して対処してきたことや、関係機関と地域の人々は、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていることなどを、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりすることを通して、理解する。</p>	<p>過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、活動の働きを考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と都道府県 - 県内の伝統や文化、先人の働き -		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
(5) 県内の 伝統や文 化、先人の 働き	○県内の伝統や文化は、地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていること、先人の働きは、地域の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。	○位置や空間的な広がり事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の願いや努力を考えたり、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 文化財や年中行事が受け継がれていること、それらは地域の歴史を伝えるものであることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ) 先人は様々な苦心や努力を重ねて業績を成し遂げたことや、当時の人々の生活の向上や地域の発展に大きく貢献したことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、人々の願いや努力を考え、表現する。 (イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、先人の働きを考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
(その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。)

私たちの生活と国土 - 我が国の国土の様子 -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の国土やその領域では、その自然条件と人々の生活や産業、国土の環境保全が関連して行われていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 我が国の国土の様子と国民生活	<p>(ア) 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して大まかに理解する。</p> <p>(イ) 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の特色を考え、表現する。</p> <p>(イ) 地形や気候などに着目して、国土の自然環境の特色や国土の特色と国民生活との関連を考え、表現する。</p>
(2) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	<p>(ア) 我が国では、国土の自然条件との関係から様々な自然災害が起こりやすいこと、これからも発生する可能性があること、国や県などは、災害の種類や国土の自然条件に応じた対策や事業を進めていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ) 我が国は、国土に占める森林面積の割合が高いこと、森林は国土の保全や水源の涵養などに大切な働きをしていること、森林はその育成や保護に従事している人々の取組により維持・管理されていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(ウ) 我が国では、公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきたことや多くの人々の努力や協力により改善が図られてきたことなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、自然条件との関連を考え、表現する。</p> <p>(イ) 森林資源の分布や働きなどに着目して、森林資源が果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(ウ) 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組の働きを考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と国土 - 我が国の産業と情報の関わり（食料生産・工業生産・情報を活用して発展する産業） -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○我が国の産業は、国土の自然条件を生かして営まれていたり、消費者の需要や社会に対応して行われたりしていることや、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。</p>	<p>○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、産業が情報化の進展により発展してきたことや国民生活に果たす役割を考えたり、これからの産業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。</p>
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(3) 我が国の農業や水産業における食料生産	<p>(ア) 食料生産は国民の食生活を支えていること、食料の生産量は国民生活と関連して変化していること、食料の中には外国から輸入しているものがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ) 農業や水産業の盛んな地域の人々が、生産性や品質を高めるなど様々な工夫や努力を行っていること、費用が発生すること、輸送方法や販売方法を工夫することにより収益を上げていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現する。</p>
(4) 我が国の工業生産	<p>(ア) 我が国では様々な種類の工業生産が行われ、工業が盛んな地域は全国各地に分布していること、工業製品の改良と国民生活の向上とは深い関わりがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ) 工場で働く人々は様々な工夫や協力をしていること、工業生産には様々な工場が関連していること、優れた技術を生かして消費者の需要や社会の発展に応える研究開発などの努力を行っていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(ウ) 原材料や工業製品の輸出入の特色や、輸出入や出荷には、海上輸送、航空輸送、陸上輸送などが使われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、我が国の工業生産の働きを考え、表現する。</p> <p>(ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の役割を考え、表現する。</p>
(5) 我が国の産業と情報との関わり	<p>(ア) 放送、新聞などの産業は、正確な情報を分かりやすく速く伝えるために多種多様な情報を収集し、選択・加工していること、様々な情報媒体を活用していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ) 多様で大量の情報を瞬時に収集・発信し、それらを活用することで産業が変化し発展していること、国民が情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを楽しむことができ、生活が向上していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送や新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と国や国際社会 - 我が国の政治の働き -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいて行われていることや、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図っていることを理解する。	○事象や人々の相互関係などの視点に着目して、我が国の政治の働きについて、様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 我が国の政治の働き	<p>(ア) 日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ) 国や地方公共団体の政治は国民生活と密接な関係をもっていること、それらの政治は国民主権の考え方を基本として、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることなどを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。</p>	<p>(ア) 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現する。</p> <p>(イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国民生活における政治の働きを考え、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と国や国際社会 - 我が国の歴史上の主な事象 -

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたことを理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解する。	○時期や時間の経過などの視点に着目して、先人の業績を政治や経済、世界との関わりなどの様々な面から、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
(2) 我が国の歴史上の主な事象	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	○遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、次のことを理解する。 (ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したこと、その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと (イ) 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたこと (ウ) 貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたこと (エ) 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったこと (オ) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたこと (カ) キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたこと (キ) 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したこと (ク) 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったこと (ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと (コ) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したこと (サ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

私たちの生活と国や国際社会 - 国際社会における日本の役割 -

(3) グローバル化する世界と日本の役割	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○我が国は、他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。	○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、国際交流の果たす役割や国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、我が国が国際社会において果たすべき様々な役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 外国の人々の生活の様子には違いがあること、その違いがその国の文化や習慣を特徴付けていること、国際的なスポーツ交流や様々な文化を通じた国際交流が行われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ) 国際連合の役割や我が国が平和な国際社会や諸外国の発展に貢献していること、今後も国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア) 外国の人々の生活の様子などに着目して、国際交流の果たす役割を考え、表現する。 (イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(2) 中学校社会科 地理的分野

A 世界と日本の地域構成

(1)地域構成	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○緯度や経度、世界の大陸分布や日本の領域などを対象として、世界と日本の地域構成の特色を理解する。	○位置や分布などに関わる視点に着目して、世界と日本の空間的な広がりについて、世界や日本の諸事象や様々な地域の特色を学ぶ座標軸である地域構成を大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)①から③について、世界の地域構成を大観して理解する。 ①緯度と経度、②大陸と海洋の分布、③主な国々の名称と位置 (イ)①から③について、日本の地域構成を大観して理解する。 ①我が国の国土の位置、②世界各地との時差、 ③領域の範囲や変化とその特色	(ア)世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する (イ)日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 世界の様々な地域

(1)世界各地の人々の生活と環境	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の多様な地域を対象として、世界各地の人々の生活が、自然的及び社会的条件から影響を受けたり、条件に影響を与えたりしながら多様性が生じることを理解する。	○人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、世界の多様な地域における人々の生活について、その特色や変容の理由を、自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。 (イ)世界の人々の生活や変容による環境の多様性を理解する。その際、世界の主な宗教の分布を理解する。	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)世界の諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の各州を対象として、地域内で見られる地球的課題と関連付けながら地域的特色を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響と、地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア上の①から⑥の各州について (ア)世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 (イ)世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大まかに捉えてを理解する。	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア上の①から⑥までの世界の各州において、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、それらの地域的特色と関連付けて大観し、多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
(その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。)

C 日本の様々な地域

(1)地域調査の手法	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○学校周辺の地域を対象として、地域の特色を明らかにするために地域調査の手法を理解する。	○人間生活と自然環境との関係などに関わる視点に着目して、学校周辺の地域について主題を設定し、文献や調査から地理的な事象を見出し、事象同士を関連付けて追究してまとめることを通して、地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。 (イ)地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。	地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。
(2)日本の地域的特色と地域区分	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○日本を複数の項目について区分することで、区分された特色ある地域から日本が構成されていることや、日本全体の地域的特色を理解する。	○位置や分布、人間と自然環境との関係、スケールなどに関わる視点に着目して、複数の項目について日本を地域区分し、区分された地域の共通点や差異、分布から、日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の項目を取り上げ、以下の(ア)～(オ)を理解し、(カ)の技能を身に付ける。 (ア)日本の自然環境に関する特色 (イ)日本の人口に関する特色 (ウ)日本の資源・エネルギーと産業に関する特色 (エ)国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色 (オ)(ア)から(エ)までを踏まえた我が国の国土の特色を大まかに捉える (カ)日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能	・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信を取り上げ、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、現する ・日本の地域的特色を、①から④の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
(その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。)

C 日本の様々な地域		
(3)日本の諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○幾つかに区分した日本の諸地域を対象として、日本の諸地域の地域的特色や課題を理解する。	○地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、日本の諸地域における地域の特徴を、適切な事象を取り上げ、他の事象や課題と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。 (イ)以下の①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。 ① 自然環境を中核とした考察の仕方 ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③ 産業を中核とした考察の仕方 ④ 交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方	日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 ① 自然環境を中核とした考察の仕方 ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③ 産業を中核とした考察の仕方 ④ 交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方
(4)地域の在り方	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○分野のまとめとして、適切な地域と課題を取り上げ、持続可能な社会づくりの視野から、課題解決に向けて考察、構想したことを表現する手法を理解する。	○地域的な課題解決の取組に関する理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、地域で見られる地理的な課題について、持続可能な社会づくりの視野から、類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)地域の実態や課題解決のための取組を理解する。 (イ)地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法を理解する。	地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(5) 中學校社會科 歷史的分野

A 歴史との対話		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○過去からの経緯を理解するための情報を獲得する方法や、時間軸で整理する技能を用いて、歴史上の人物や出来事が、過去の資料に基づいて記述されていることや、現在の身近な地域の景観や特徴が、歴史的な経緯によって形成されていることを理解する。</p>	<p>○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、小学校での学習で獲得した知識を時間軸で整理したり、地域などの空間を設定し、根拠を踏まえて現在の景観や特徴につながる過去の事象との関わりや、時代区分との関わりについて整理して考察し、表現することができる。</p>
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
<p>(1)歴史との対話 →(A(1)(2)を統合)</p>	<p>(ア) （私たちと歴史）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代の表し方や時代区分の意味や意義を理解する。 ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付ける。 <p>(イ) （身近な地域の歴史）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。 	<p>(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代区分や時期区分が多様であることや、基本的な区分について、相互の関係について理解する。 ・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現する。 <p>(イ) 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 近世までの日本とアジア		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○列島周辺地域との関係を背景に、日本列島に国家が形成され、 アジア諸地域との関係をもちながら、政治のしくみが整えられたり、特徴的な文化が育まれたことについて理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特色を大観して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 古代までの日本	(ア) (世界の古代文明や宗教のおこり) ・次の①及び②などを題材に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ①世界の古代文明 ②宗教のおこり	(ア) 古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ) (日本列島における国家形成) ・次の①及び②などを題材に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰 ②大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わり	(イ) 農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(ウ) (律令国家の形成) ・次の①及び②などを題材に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 ①律令国家の確立に至るまでの過程 ②摂関政治	(ウ) 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(エ) (古代の文化と東アジアとの関わり) ・次の①及び②などを題材に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。 ①仏教の伝来とその影響 ②仮名文字の成立	(エ) 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の文化と東アジアとの関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
 （その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力（案） <中学校 歴史的分野③>

B 近世までの日本とアジア		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の中で展開したことや、その中で民衆の成長により形成された社会や多様な文化について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(2) 中世の日本	(ア) (武家政治の成立とユーラシアの交流) ・次の①及び②などを題材に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 ① 鎌倉幕府の成立 ② 元寇（モンゴル帝国の襲来）	(ア) 武士の政治への進出、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ) (武家政治の展開と東アジアの動き) ・次の①及び②などを題材に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。 ① 南北朝の争乱と室町幕府 ② 日明貿易と琉球の国際的な役割	(イ) 武士の政治の展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の展開と東アジアの動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(ウ) (民衆の成長と新たな文化の形成) ・次の①から④などを題材に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。 ① 農業など諸産業の発達 ② 畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立 ③ 武士や民衆などの多様な文化の形成 ④ 応仁の乱後の社会的な変動	(ウ) 農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長と新たな文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

B 近世までの日本とアジア		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○ヨーロッパの諸勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、統一政権の形成や、その諸政策によって生み出された安定的なつながりが経済活動や文化の発達を促したことや、その後の国内外の情勢の変化への対応について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(3) 近世の日本	(ア) (世界の動きと統一事業) ・次の①から③などを題材に、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。 ① ヨーロッパ人来航の背景とその影響 ② 織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、 ③ 武将や豪商などの生活文化の展開	(ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ) (江戸幕府の成立と対外関係) ・次の①から③などを題材に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ① 江戸幕府の成立と大名統制 ② 身分制と農村の様子 ③ 鎖国などの幕府の対外政策と対外関係	(イ) 幕府の政策の目的と社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(ウ) (産業の発達と町人文化) ・次の①及び②などを題材に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ① 産業や交通の発達 ② 教育の普及と文化の広がり	(ウ) 産業の発達と文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ) (幕府の政治の展開) ・次の①から③などを題材に、幕府の政治の社会変化への対応を理解する。 ① 社会の変動や欧米諸国の接近 ② 幕府の政治改革 ③ 新しい学問・思想の動き	(イ) 社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、幕府の政治の展開について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

C 近現代の日本と世界		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、社会や対外的な状況の変化への対応が求められ、新たな制度や文化の導入とそれまでの社会とのつながりの中で、日本の近代国家のしくみや近代的な社会や文化が形成されたことを理解する。</p>	<p>○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代前半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。</p>
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(1) 近代 (前半)の 日本と世界	<p>(ア) (欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き)</p> <p>・次の①及び②などを題材に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。</p> <p>①欧米諸国における産業革命や市民革命 ②アジア諸国の動き</p>	<p>(ア) 工業化の進展と政治や社会の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
	<p>(イ) (明治維新と近代国家の形成)</p> <p>・次の①から③などを題材に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。</p> <p>①開国とその影響 ②富国強兵・殖産興業政策 ③文明開化の風潮</p>	<p>(イ) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
	<p>(ウ) (議会政治の始まりと国際社会との関わり)</p> <p>・次の①から④などを題材に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。</p> <p>①自由民権運動 ②大日本帝国憲法の制定 ③日清・日露戦争 ④条約改正</p>	<p>(ウ) 議会政治や外交の展開、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
	<p>(エ) (近代産業の発展と近代文化の形成)</p> <p>・次の①から③などを題材に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。</p> <p>①我が国の産業革命 ②近代化と国民生活の変化 ③学問・教育・科学・芸術の発展</p>	<p>(エ) 工業化の進展と政治や社会の変化、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代産業の発展と近代文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
(その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。)

高次の資質・能力（案） <中学校 歴史的分野⑥>

C 近現代の日本と世界		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、国際情勢の推移とその対応が政治や社会の変化を促したことや、戦争による惨禍が繰り返された経緯から国際協調の意義について理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代後半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現代の諸課題の解決に向けた手掛かりについて構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(2) 近代（後半）の日本と世界	<p>(ア)（第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現）</p> <p>・次の①から③などを題材に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。</p> <p>①第一次世界大戦の背景とその影響 ②民族運動の高まりと国際協調の動き ③我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化</p>	<p>(ア) 世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
	<p>(イ)（第二次世界大戦と人類への惨禍）</p> <p>・次の①から⑤などを題材に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。</p> <p>①経済的世界的な混乱と社会問題の発生 ②昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き ③中国などアジア諸国との関係 ④欧米諸国の動き ⑤戦時下の国民の生活</p>	<p>(イ) 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

高次の資質・能力（案） <中学校 歴史的分野⑦>

C 近現代の日本と世界		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の動向を背景に、冷戦下の日本の政治や経済の動きと社会の形成、冷戦後の国際社会との関係について理解するとともに、それらと現在の社会とのつながりについて理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、第二次世界大戦後の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
(3) 現代の日本と世界	(ア) (日本の民主化と冷戦下の国際社会) ・次の①から③などを題材に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ①冷戦 ②我が国の民主化と再建の過程 ③国際社会への復帰	(ア) 諸改革の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	(イ) (日本の経済の発展とグローバル化する世界) ・次の①及び②などを題材に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 ①高度経済成長と国際社会との関わり ②冷戦の終結とグローバル化する世界とその中の日本	(イ) 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、多面的・多角的に考察し、表現する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。
 （その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

(6) 中学校社会科 公民的分野

A 私たちと現代社会		
(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○現代日本の社会を特色付ける課題について、グローバル化や文化の意義及び影響と関連付けて理解する。	○位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に着目して、現代社会に見られる課題が将来の政治、経済、文化、国際関係に与える影響について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが見られること (イ) 現代社会における文化の意義や影響	位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などに着目して、 ・情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが現在と将来の私たちの生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する ・文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現する
(2) 現代社会を捉える枠組み	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人の尊厳と両性の本質的平等を基礎とする現代社会のもとで、対立と合意、効率と公正などを理解した上で、合意を定めるきまり・契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任を理解する。	○対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して、望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等 (イ) 現代社会の見方や考え方の基礎となる枠組みとしての対立と合意、効率と公正 (ウ) 契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任	対立と合意、効率と公正などに着目して、 ・社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

B 私たちと経済		
(1) 市場の働きと経済	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○経済に関する仕組みと身近な経済活動に見られる諸事象を結び付けた、経済活動の意義を理解した上で、それと関連付けて、市場の働きと経済を理解する。	○分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた、豊かな経済活動の実現とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義 (イ) 市場における価格の決め方や資源の配分などを含めた、市場経済の基本的な考え方 (ウ) 現代の生産や金融などの仕組みや働き (エ) 勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の内容	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などに着目して、 ・個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する ・社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する
(2) 国民の生活と政府の役割	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○国や地方公共団体の財政に関する仕組みとそれらの意義などを理解した上で、それと関連付けて、すべての経済主体が連携・協働を図ることの意味を理解する。	○分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた、現代社会に見られる課題の解決とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、人口減少社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義 (イ) 財政及び租税の意義、国民の納税の義務 (ウ) 現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換などに着目して、国や地方公共団体の財政に関する役割を踏まえて、社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、 ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する ・財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

C 私たちと政治		
(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義を理解した上で、それと関連付けて、日本国憲法の基本原理を理解する。	○個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、現代社会の課題を解決するために、憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原理が果たす意義について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義 (イ) 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること (ウ) 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること (I) 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、 ・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する
(2) 民主政治と政治参加	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○国民の政治参加の意義を理解した上で、それと関連付けて、地方自治や我が国の民主政治の考え方を理解する。	○個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて、政治参加に関する具体的な課題を挙げて、望ましい政治参加の在り方について考察、構想し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割 (イ) 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方 (ウ) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること (I) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務 (オ) 現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、 ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

D 私たちと国際社会の諸課題		
(1)世界平和と人類の福祉の増大	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○国際社会に関する基本的な事項、国際社会の現状などを理解した上で、それと関連付けて、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けて、地球規模の諸課題の解決のために国際協調や協力などが大切であることを個人と社会の関わりを中心に理解を深める。	○持続可能性などの概念的な枠組みに着目して、主体的に社会に関わることにに向けて、世界平和のために私たちにできることについて、考察、構想したことを説明したり、それらをもとに議論したりする。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア) 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構や国際法などの役割が大切であること (イ) 領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合をはじめとする国際機構、国際法など基本的な事項 (ウ) 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であること (エ) 国際社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、 ・日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
(2)よりよい社会を目指して	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	—	○社会的な視点や方法等を用いて、現代の社会的事象から課題を見いだし、社会参画を視野に入れながら、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	—	持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な視点や方法等を用いて、 ・私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、社会参画を視野に入れながら、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。

※各学習内容（白色背景の部分）については、現行学習指導要領をもとに暫定的な内容を記載したものであり、今後、個別の学習内容については別途検討するものとする。

（その検討状況を踏まえて、必要に応じて高次の資質・能力を見直すこともあり得る。）

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

議題 2

系統性・体系性等の整理について

論点 1 小・中・高等学校を通じた整理の考え方について

論点 2 小・中学校段階における系統性・体系性の整理について

系統性・体系性等の整理①

1. 現状等

(1) 系統性・体系性の考え方

- ・ 社会科・地理歴史科・公民科の系統性・体系性として、小学校社会科において、社会的事象を総合的に捉えた上で、中学校社会科において分野別に大きな流れを把握し、高等学校地理歴史科・公民科においてより学びを深めていく構造となっている。
- ・ 例えば、歴史領域においては、小学校で先人の業績や優れた文化遺産、中学校で我が国の歴史の大きな流れ、高等学校で歴史の変化や展開等に関わる諸事象について学ぶこととなっている（参考資料参照：47から49ページ）。これらは、発達段階に応じて必要な資質・能力を育む観点から必要な事項を定めているものであり、同一内容を同様に扱っているものではない。一方で、これらの内容については児童生徒の深い学びを実現していく観点から不断に見直しを行っていくことが必要である。

(2) 内容の枠組みや対象の整理

- ・ 社会的事象を総合的に捉える小学校社会科において、教員は、指導している内容が社会科全体においてどのような位置づけにあるか、中学校社会科とどのようにつながるか、といったことを意識しづらいという点を踏まえ、小中学校の社会科の内容を、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活という三つの枠組みに位置付けるとともに、①と②は空間的な広がりを念頭に地域、日本、世界、③は社会的事象について経済・産業、政治および国際関係に整理し、小・中学校学習指導要領解説において、系統的・体系的に意識できるよう示している。これらの系統性・体系性が十分に機能しているかという観点で見直しを行うことが必要である。

2. 改善の方向性【補足イメージ1：46ページ】

- ・ 今次改訂において、教育内容や科目構成の見直しを行い、内容・構造の改善に一定の成果が見られること（第一回WG資料 p 2 参照）を踏まえ、小中高を通じた、系統性・体系性の大枠は維持しつつ、理解をより深める観点から、以下の視点で見直す方向で考えてはどうか。
※ メディアリテラシーを含めた調べ、まとめる技能は次回以降WGで検討

(1) 小・中・高等学校を通じた整理の考え方

- (2) (3) などによる内容の充実を図る際、全体として学習内容が増加させず、一定の精選を図る観点から、以下のように教育内容を整理する際の考え方を示すことの適否についてどのように考えるか。

<整理の考え方>

- ①社会科等の「高次の資質・能力」を育成するために必要な内容となっているか。
→ 調整授業時数制度により標準を下回って柔軟に時数設定される場合も考慮する必要。このような視点も含め、深い学びを実現するための授業づくりの具体的なイメージ例の提示と併せ、高次の資質・能力に照らして内容項目の精選を図ることも検討
- ②小・中・高等学校の各内容の枠組みと対象の系統性・体系性が明確か（校種間や科目間で重複している内容は、児童生徒の発達段階に応じ、適切な学校種や科目に位置付けるよう再整理）
→ 他教科等との内容と重複する内容についても、社会科の資質・能力を育成する上で真に必要な内容なのかを踏まえて整理することも検討
- ③社会情勢の変化や社会参画意識に関する課題の観点から真に必要な内容が含まれているか

2. 改善の方向性（続き）

（2）小学校段階【補足イメージ2：50ページ】

小学校段階において、グローバル化する国際社会を踏まえ、以下の改善を行うこととしてはどうか。

ア. 現状と課題

- ・ 現行の学習指導要領では、社会を捉える枠組みとして、発達段階等を踏まえ、第3学年で身近な市町村、第4学年で都道府県、第5学年で国、第6学年で世界・国際社会の内容を取り上げることとしている。
- ・ 一方、グローバル化する国際社会に伴い、児童が地域コミュニティの中で、国際的な環境に身近に触れる機会が急激に高まっており、社会の現状と児童の学習内容の進捗にはギャップが生じているという課題がある。

イ. 改善方策（案）

- ・ 小学校段階において、児童の思考、認識の拠点を発達の段階に合わせて、**身近な地域から始め、国際社会へと広げていくという考え方は継続しつつ、グローバル化などの地域社会の変化を含めた内容について見直し**してはどうか。

■新たに追加すべき観点

<私たちの生活と市町村>

- ・人口減少、少子高齢化、国際化などの地域社会の変化

<私たちの生活と都道府県>

- ・少子高齢化、国際化などの地域社会の変化

<私たちの生活と国、国土>

- ・食料の輸出、産業の変化、情報通信技術の向上と発展などの外国との関わり
- ・復旧や復興、地域の活性化などの外国との関わり
- ・人口減少、少子高齢化、国際化などの社会の変化

2. 改善の方向性（続き）

(3) 中学校段階【補足イメージ3：51ページ】

小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける、分野横断的な単元（A・B・C）を新設することとしてはどうか。その際、地理・歴史・公民の3分野を有機的に関連付ける分野横断のねらいを実現できるようにするため、現行の各分野の内容の一部あるいは全部を移行し、その上で各分野の内容の改善を図ることとしてはどうか。

①導入単元の新設

ア. 現状と課題

- ・ 現行の歴史的分野においては、学習の導入として、小学校で学習した人物や文化財、歴史上の出来事などから適切なものを取り上げ、これと時代区分との関わりなどについて学習する項目を設けている。
- ・ 一方、他の分野では小学校の学習を踏まえた導入的な項目は設けられておらず、見通しを持った学びを行いにくい実態がある。

イ. 改善方策（案）

- ・ 以下に掲げる学習活動を通じて、中学校社会科への学習の動機付けを行う**分野横断の単元「社会への扉（仮称）」を新たに設ける**方向で検討してはどうか。
 - － 中学校**3年間の学習の流れや社会科を分野別で学習する意味や意義、各分野の特徴や関係**などについて学ぶこと
 - － 小学校の地域の学習で得た視点を総合的に活用し、地域の歴史や防災、国際化、伝統文化などを主題として**私たちの社会にはどのような特色があるかを学ぶ**こと

②接続単元の新設

ア. 現状と課題

- ・ 中学校においては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野のそれぞれにおいて学習が行われており、これらの科目の有機的な連携が必ずしも図られていない。

イ. 改善方策（案）

- ・ 地理的分野や歴史的分野での学びを通じた社会の有り様の考察に加え、現代社会の課題の解決に向けての気付きなどから、**公民的分野の学習への動機付けを行う分野横断の単元「私たちと社会（仮称）」を新たに設ける**こととしてはどうか。

③まとめ単元の見直し

ア. 現状と課題

- ・ 公民的分野においては、同分野のまとめとして学習する単元として、「よりよい社会を目指して」が設けられている。

イ. 改善方策（案）

- ・ 中学校社会科のまとめとして、生徒が課題を探究する活動を通して私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を考察・構想する**分野横断のまとめ単元「よりよい社会を目指して（仮称）」に位置付け直す**こととしてはどうか。

④地域を題材とした学習活動（地域調査含む）

ア．現状と課題

- ・身近な地域や事象を扱う地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）については、その教育的意義（※1）を踏まえて、地理的分野・歴史的分野において行うことが規定（※2）されているが、小学校に比べて十分に行われていない状況にある。

<十分に行われていない背景>

- ・実地調査の性質上、授業時数内での実施が難しい
- ・準備や実施に多くの時間が必要となる
- ・地域調査を実施する上で、教員の知識・経験が不足しており、具体的な指導ができていない

※1 地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）の教育的意義

- ①子どもの学習意欲を高め学習課題を持たせやすいこと
- ②子どもの原体験を補完しうるものであること
- ③地域再生・創造の一翼を担うことなど
- ④教室内の学習を実社会の姿と結び、学びを深める手がかりを得ること
- ⑤自らの生活空間や生活体験と学校での学習を結び、地域社会を構成する一員としての自覚とともに学習内容を捉える姿勢を育むこと など

※2 学習指導要領での記載事項

<地理的分野>

- ・対象地域は学校周辺であること
- ・主題は、学校の事情を踏まえ、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定すること

<歴史的分野>

- ・地域の特性に応じた時代を取り上げること
- ・人々の生活や生活に根差した伝統や文化に着目すること

イ．改善方策（案）

- ・身近な題材を扱うことでより実感を持った学習を進めるため、②の接続単元において、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を地理・歴史両面から扱うこととしてはどうか。その際、この学習活動の教育的意義や、論点整理で示されている各教科の「探究的な要素を持つ学習課題の充実」なども踏まえ、次のとおり改善してはどうか。

<地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）の見直しの方向性>

- ✓ 現行学習指導要領の地理的分野・歴史的分野の地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）に関わる内容について、歴史的分野や公民的分野との関連も踏まえつつ、分野横断的な単元として整理
- ✓ 地域の諸課題やその解決を見通した学習課題を設定することで、社会参画意識の向上に資する学習内容とする
- ✓ その際、地域人材を積極的に活用するなどの取組を行う。
- ✓ なお、実施時期は、原則、3年間の学習の流れや公民的分野との関連を重視するものの、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）の実施時期や方法については、分野横断的に設定した単元のすべてあるいはいずれかで柔軟に実施できる方向とする（学校行事等との連携も含む）
- ✓ 学校現場における教員の専門性確保等も考慮し、授業の構想に資する優れた指導事例等の周知等を国が主体で行う

- ・現実社会から課題を捉える手法として、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を分野横断の単元（A～C）を行う際の主な方法として位置付けるとともに、実施時期や方法は柔軟に扱うことを前提とした上で、特に地域を題材とした学習においてより高い効果が見込まれ、主たる実施単元となる分野横断の新単元B「私たちと社会」に位置付けることとしてはどうか。

（参考）小・中学校社会科における内容の枠組みと対象

		地理的環境と人々の生活			現代社会の仕組みや働きと人々の生活			歴史と人々の生活		
		地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界
小学校	3年	身近な地域や市の様子 仕事の種類や産地			地域に見られる生産や販売の仕事	市役所などの公共施設の場所と働き 地域の安全を守る働き	国際化 外国との関わり	市の様子の変り変わり		
	4年	県の様子 県内の特色ある地域の様子	47都道府県の名称と位置		人々の健康や生活環境を支える事業 開発、産業などの事例（選択）	自然災害から人々を守る活動 国際交流に取り組む地域		公衆衛生の向上 過去に発生した地域の自然災害 県内の伝統や文化、先人の働き		
	5年	我が国の国土の様子と国民生活 生産物の種類や分布 工業の盛んな地域の分布 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		世界の大陸と主な海洋、世界の主な国々	自然環境に適応して生活していること 我が国の農業や水産業における食料生産 我が国の工業生産 我が国の産業と情報との関わり 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		輸入など外国との関わり 貿易や運輸		生産量の変化・技術の向上 工業製品の改良 情報を生かし発展する産業	
	6年			外国の人々の生活の様子		我が国の政治の働き 我が国の国際協力	グローバル化する世界と日本の役割		我が国の歴史上の主な事象	国際社会での重要な役割 当時の世界との関わり
中学校	地理的分野	◎地域調査の手法 ◎地域の在り方	地域構成（日本） 日本の地域的特色と地域区分 日本の諸地域	地域構成（世界） 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	資源・エネルギーと産業 産業を中核とした考察の仕方		交通・通信 州という地域の広がりや地域内の結び付き	地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点		
	歴史的分野				ギリシャ・ローマの文明 市民革命 立憲国家の成立と議会政治 国民の政治的自覚の高まり 我が国の民主化と再建の過程		◎歴史との対話	近世の日本とアジア 近現代の日本と世界	世界の古代文明や宗教の起こり 武家政治の成立とユーラシアの交流 世界の動きと統一事業 欧米諸国における近代社会の成立とアジア諸国の動き 日本の民主化と冷戦下の国際社会	
	公民的分野		少子高齢化 情報化、グローバル化		私たちが生きる現代社会と文化の特色 現代社会を捉える枠組み 私たちと経済 私たちと政治	現代社会と文化の特色 現代社会を捉える枠組み 世界平和と人類の福祉の増大	文化の継承と創造の意義			

※太字は内容の大項目

(参考) 高等学校地理領域科目と小・中学校の学習内容との関係について

小学校社会

【第3学年】

- (1) 身近な地域や市区町村の様子
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事
- (3) 地域の安全を守る働き
- (4) 市の様子の移り変わり

【目標(1)】身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、**地域の様子の移り変わり**について、人々の生活との関連を踏まえて理解する。

- 市はどこに位置しているか、どのように広がっているか、どのように利用されているかなどの問いを設けて調べたり、場所ごとの様子を比較して違いを考えたりして、調べたことや考えたことを表現する

【第4学年】

- (1) 都道府県の様子
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業
- (3) 自然災害から人々を守る活動
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働き
- (5) 県内の**特色ある地域**の様子

【目標(1)】自分たちの**都道府県の地理的環境の特色**、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解する。

- 自分たちの県の概要や特色を考え、文章で記述したり、白地図などにまとめたことを基に説明したりすること
- 県内の**特色ある地域**が大まかに分かるようにする

【第5学年】

- (1) 我が国の**国土の様子と国民生活**
- (2) 我が国の農業や水産業
- (3) 我が国の工業生産
- (4) 我が国の産業と情報との関わり
- (5) 我が国の**国土の自然環境と国民生活との関連**

【目標(1)】我が国の**国土の地理的環境の特色**や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解する。

- 世界の中における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにする
- 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにする

中学校社会

【地理的分野】

- A (1) 地域構成
- B (1) 世界各地の人々の生活と環境
- B (2) 世界の諸地域
- C (1) 地域調査の手法
- C (2) 日本の地域的特色と地域区分
- C (3) 日本の諸地域
- C (4) 地域の在り方

【目標(1)】我が国の国土及び世界の諸地域に関して、**地域の諸事象や地域的特色**を理解する…

- 115単位時間での実施（一般的に第1学年と第2学年）
- ESDの視点から世界の諸地域学習における地球的課題の視点を導入し、動態地誌的な視点から日本の諸地域学習における考察の仕方を柔軟化。また、地域調査に関わる内容構成を見直し
- 位置や分布、場所、人間と自然との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域**に関わる視点に着目した考察

（歴史的分野）

（公民的分野）

高等学校地理領域科目 〔地理領域科目〕

〔必修科目〕
〔選択科目〕

【地理総合】

- A (1) 地図や地理情報システムと現代世界
- B(1) 生活文化の多様性と国際理解
- B(2) 地球的課題と国際協力
- C(1) 自然環境と防災
- C(2) 生活圏の調査と地域の展望

【目標(1)】地理に関わる諸事象に関して、**世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組**などを理解する…

- 汎用的で実践的な地理的技能を基に、グローバルな視座から求められる自他の文化の尊重と国際協力、我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災に関する学習の充実。
- まとめの中項目として、持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望が設定され、探究する手法を理解。

【地理探究】

- A (1) 自然環境
- A (2) 資源、産業
- A (3) 交通・通信、観光
- A (4) 人口、都市・村落
- A (5) 生活文化、民族・宗教
- B (1) 現代世界の地域区分
- B (2) 現代の諸地域
- C (1) 持続可能な国土像の探究

【目標(1)】地理に関わる諸事象に関して、**世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題**などを理解する

【目標(3)】地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養う

(参考) 高等学校歴史領域科目と小・中学校の学習内容との関係について

小学校社会

〔第3学年〕

- (1) 身近な地域や市区町村の様子
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事
- (3) 地域の安全を守る働き
- (4) 市の様子の移り変わり

〔第4学年〕

- (1) 都道府県の様子
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業
- (3) 自然災害から人々を守る活動
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働き
- (5) 県内の特色ある地域の様子

〔第6学年〕

- (1) 我が国の政治の働き
- (2) 我が国の歴史上の主な事象
- (3) グローバル化する世界と日本の役割

【目標(1)】…国家及び社会の発展に大きな働きをした**先人の業績や優れた文化遺産**…について理解する

- 第6学年の「内容」にある三つの項目の一つとして実施
- 42名の人物の例示、「(国宝、重文、世界文化遺産など) 代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮」(内容の取扱い)
- 主に、**起源、変化、継承(時期や時間の経過)**などを問う視点に着目して考察

中学校社会

〔地理的分野〕

〔歴史的分野〕

- A (1) 私たちと歴史
- A (2) 身近な地域の歴史
- B (1) 古代までの日本
- B (2) 中世の日本
- B (3) 近世の日本
- C (1) 近代の日本と世界
- C (2) 現代の日本と世界

【目標(1)】我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、**各時代の特徴を踏まえて理解する**…

- 135単位時間での実施 (一般的に第1学年から第3学年1学期途中まで)
- 時代区分の意味を踏まえ、時代の特徴を表現(時間軸による事象の整理)
- (時期、年代など) **時系列**、(展開、変化、継続など) **諸事象の推移**、(類似、差異、特色など) **諸事象の比較**、(背景、原因、結果、影響など) **事象相互のつながり**などに関わる視点に着目した考察

〔公民的分野〕

高等学校歴史領域科目

〔必修科目〕
〔選択科目〕

〔歴史総合〕

- A 歴史の扉
- B 近代化と私たち
- C 国際秩序の変化や大衆化と私たち
- D グローバル化と私たち

【目標(1)】**近現代の歴史の変化に関わる諸事象**について、**世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する**

- 近現代の歴史の大きな変化(近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化)に着目した単元構成
- 各単元のまとめは、現代的な諸課題につながる歴史的な観点(自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調など)から主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする活動を通して考察

〔日本史探究〕

- A 原始・古代の日本と東アジア
- B 中世の日本と世界
- C 近中世の日本と世界
- D 近現代の地域・日本と世界

【目標(1)】我が国の歴史の展開に関わる**諸事象**について、**地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する**

【目標(3)】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う

〔世界史探究〕

- A 世界史へのまなざし
- B 諸地域の歴史的特質の形成
- C 諸地域の交流・再編
- D 諸地域の結合・変容
- E 地球世界の課題

【目標(1)】世界の歴史の**大きな枠組みと展開に関わる諸事象**について、**地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する**

(参考) 高等学校公民科目と小・中学校の学習内容との関係について

小学校社会

【第3学年】

- 身近な地域や市区町村の様子
- 地域に見られる生産や販売の仕事
- 地域の安全を守る働き
- 市の様子の移り変わり

【目標(1)】…地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、…について理解する

- 販売の仕事において、「他地域や外国との関わり」を取り上げる

【第4学年】

- 都道府県の様子
- 人々の健康や生活環境を支える事業
- 自然災害から人々を守る活動
- 県内の伝統や文化、先人の働き
- 県内の特色ある地域の様子

【目標(1)】…地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動…について理解する

- 自然災害から人々を守る活動において、政治の働きに関心を高めるようにすることを重視する

【第5学年】

- 我が国の国土の様子と国民生活
- 我が国の農業や水産業
- 我が国の工業生産
- 我が国の産業と情報との関わり
- 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連

【目標(1)】我が国の国土の…産業の現状、社会の情報化と産業の関わり…について理解する

- 我が国の農業や水産業における食料生産に関する内容については、「**価格や費用**」を示している
- 我が国の工業生産に関する内容については、「**工業生産を支える役割**」を考える
- 我が国の産業と情報との関わりに関する内容については、「**情報化に伴う生活や産業の変化**」を視野に入れて扱う

【第6学年】

- 我が国の政治の働き
- 我が国の歴史上の主な事象
- グローバル化する世界と日本の役割

【目標(1)】我が国の政治の考え方と仕組みや働き…我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割…について理解する

- 政治の働きへの関心を高めるようにすることを重視、国や地方公共団体の政治の取組に関する内容については、「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わり」を取り上げる
- グローバル化する世界と日本の役割に関する内容については、日本とつながりの深い国の人々の生活に関する内容として、「国際交流の果たす役割を考える」

〔地理的分野〕

〔歴史的分野〕

中学校社会

【公民的分野】

- A (1)私たちが生きる現代社会と文化の特色
A (2)現代社会を捉える枠組み
B (1)市場の働きと経済
B (2)国民の生活と政府の役割
C (1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則
C (2)民主政治と政治参加
D (1)世界平和と人類の福祉の増大
D (2)よりよい社会を目指して

【目標(1)】個人の尊厳と人権の尊厳の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、**個人と社会との関わりを中心に理解を深める**…

- 100単位時間での実施（一般的に第3学年1学期途中から）
- 現代社会を捉え、多面的・多角的に考察、構想する際に働かせる概念的な枠組みの基礎として、対立と合意、効率と公正などを取り上げ、現代社会を捉える枠組みを養う
- 課題の特質に応じた視点（概念など）に着目して考察したり、よりよい社会の構築に向けて、その課題の解決のための選択・判断に資する概念などを関連付けて構想したりするなど、現代社会の見方・考え方を働かせる
- 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養う

高等学校公民科

〔**必修修科目**〕
〔**選択科目**〕

【公共】

- A 公共の扉
B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

【目標(1)】現代の諸課題を捉え考察し、**選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論**について理解する

- 現実社会の諸課題に関わる主題を設定し、追究したり解決したりする活動
- 社会に参画する際に**選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的原理の習得**
- 自立した主体として社会に参画するために必要な資質・能力を育成する内容構成

【倫理】

- A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方
B 現代の諸課題と倫理

【目標(1)】**古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する**…

【目標(3)】

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

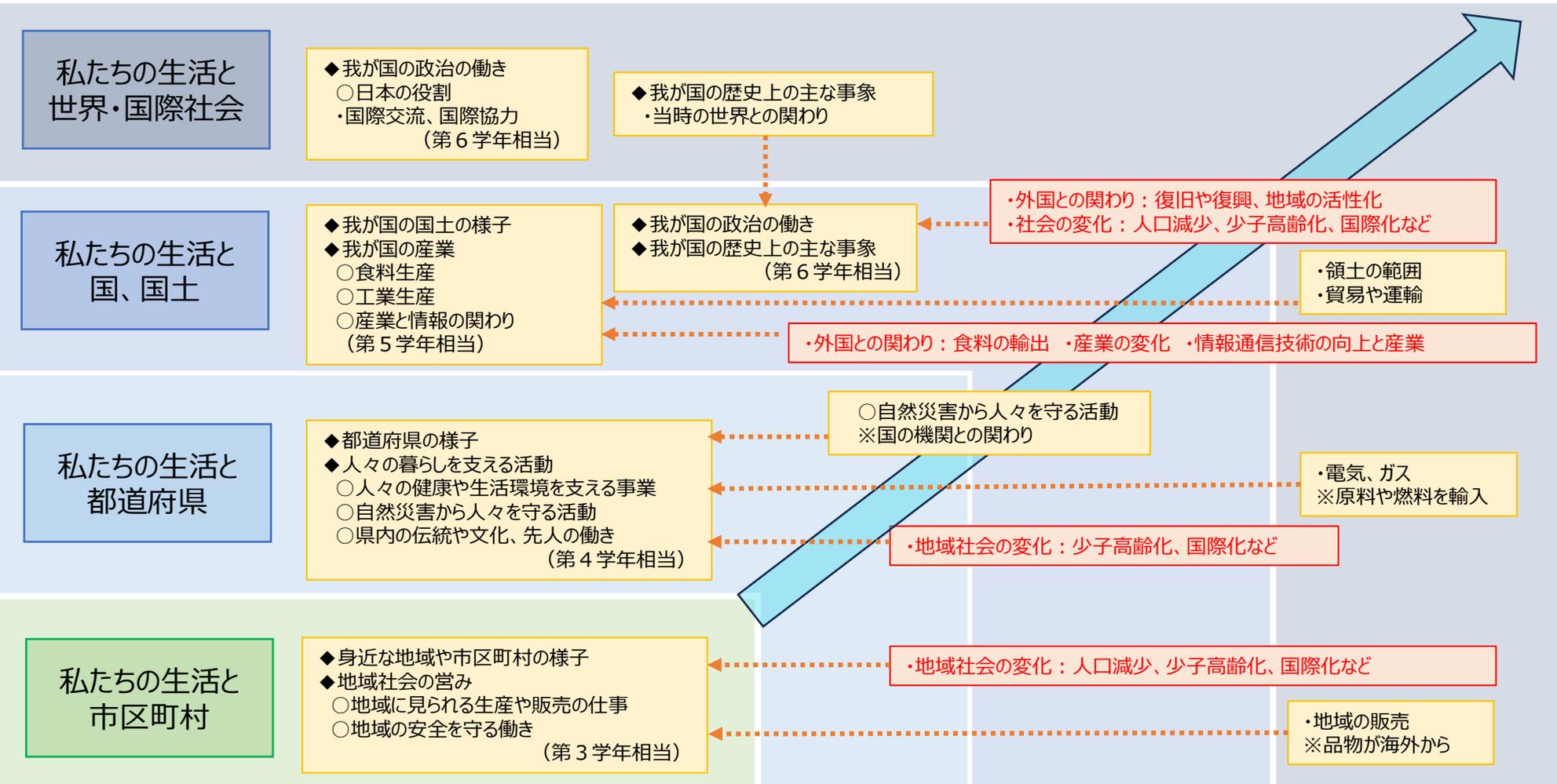
【政治・経済】

- A 現代日本における政治・経済の諸課題
B グローバル化する国際社会の諸課題

【目標(1)】**社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する**…

グローバル化する国際社会に伴い、国際的な環境に身近に触れる機会が急激に高まっていることを踏まえ、**グローバル化などの地域社会の変化を含めた内容について見直し**はどうか。例えば、市町村や都道府県の様子などを扱う際に、**自分たちの身近な地域においてもグローバルな環境との接点が増えてきていることについての理由や背景**などについて学習することとしてはどうか。

その際、発達段階にも考慮し、**身近な地域から始め、国際社会へと広げていくという考え方は継続**することとしてはどうか。



小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付け、分野横断的な単元（A・B・C）を新設することとしてはどうか。

その際、地理的分野、歴史的分野、公民的分野における必要な学習が適切に実施されるとともに、地理的分野及び歴史的分野の学習の基礎のもとに公民的分野へ円滑に移行されるよう、実施時期も念頭に検討を行うこととしてはどうか。あわせて、既存の学習事項の移行や統合、精選など学習内容の整理を行うことで、全体として学習内容の増加とならないよう検討することとしてはどうか。

現実社会から課題を捉える手法としての地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を分野横断の学習を行う際の主な方法（※）として位置付けてはどうか。

小学校社会科

中学校社会科

【分野横断】A 社会への扉（仮称）

小学校社会科の学習を踏まえた
中学校社会科への導入単元

地理的分野

歴史的分野

【分野横断】B 私たちと社会（仮称）

地理的分野と歴史的分野の学習を踏まえた
公民的分野（現代社会）への接続単元

公民的分野

【分野横断】C よりよい社会を目指して

生徒が課題を探究する活動を通して、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題の解決に向けて考察・構想する中学校社会科のまとめ単元

高等学校 地理歴史科・公民科

分野横断A「社会への扉」の学習イメージ

＜単元の問いの例＞
私たちの暮らす社会を理解し、社会と自分との関わりを考えるためには、どのように学び方を工夫できるだろうか。

＜導入単元に期待されること＞
・社会科の3年間の学習の流れや分野ごとの学習の見通しをもつ
・地理的分野（世界や日本の学習）への動機付け
・歴史的分野（各時代の特色の学習）への動機付け

＜単元の題材・学習例＞ 小学校社会科における市区町村から世界・国際社会の学習を総合的に活用

分野横断B「私たちと社会」の学習イメージ

＜単元の問いの例＞
多様な地域や環境、様々な歴史の中で、私たちは社会の一員としてどのように関わることができるだろうか。

＜接続単元に期待されること＞
・公民的分野（現代社会を捉える視点や方法（考え方）やそれらを用いて課題の解決を図る学習）への動機付け

＜単元の題材・学習例＞ 身近な地域から社会の課題を見出し、他の地域や歴史と関連付けて考察し、課題の解決に向けて選択・判断

分野横断C「よりよい社会を目指して」の学習イメージ（現行の公民的分野のD(2)）

＜単元の問いの例＞
社会に参画する主体として私たちがよりよい社会を築いていくためにはどのようにすればよいだろうか。

＜まとめ単元に期待されること＞
・社会参画意識の醸成（期待される視点例：現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべきことはなにか。私たちがよりよい社会を築いていくために、どのようなことを考え続けていくか。）

＜単元の題材・学習例＞ 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考察・構想し、構想したことを妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現

（※）分野横断の各単元のねらいに対して、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）が直接体験を生み出すことで、よりよい学びを促す方法となることを例示したり、具体的な手法を例示したりすることにより、教員が取り組みやすくすることを検討。

1. 「高次の資質・能力」を踏まえた内容検討の必要性

【検討項目④との関係】

- 検討項目④では、「高次の資質・能力」により構造化を図ることで、「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする方策について検討を行った
- この「高次の資質・能力」による内容の構造化は、「深い学び」の実装に向けた授業づくりを支え、学習過程の改善に資するとともに、学習指導要領等に示す個別の学習内容について、「各教科等の本質的な理解の獲得を重視する観点から真に必要なものか」という視点から見直す大きな契機となる

【論点整理で示されたこと】

- 論点整理においても、構造化に当たり「各教科等の本質的理解の獲得に重点を置き、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、そのために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選を行ったりしていくことが必要である」と示している
- また、教科の主たる教材として学習指導に重要な役割を果たす教科書についても、「学習指導要領の構造化の考え方を踏まえ、教科書の内容は教科等の中核的な概念等を掴みやすいものに精選する」という方向性を示している



- こうした学習指導要領等に示す内容の検討と必要に応じた精選、それに伴う教科書の精選の在り方について、各WGの検討に先立ち、基本的な考え方を整理する必要

2. 各WGにおける検討に当たっての基本的な考え方

- 「高次の資質・能力」については、①各教科等の本質的な意義や背景にある学問的な系統性から演繹的に導かれる側面と、②既にある個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の2つの側面があると考えられる
- このため、具体的な検討に当たっては、①教科等の本質的な意義や系統性に照らした妥当性の観点と、②個別の資質・能力に照らした妥当性の両面を勘案しながら、最終的には、教師にとって分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わるものとしていく必要があるのではないか
- このような視点から、各WG等の議論や提示資料の作成に際しては、
 - 「高次の資質・能力」の全体を整理していく作業
 - 整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する作業
 - 整理した個別の資質・能力を踏まえて、「高次の資質・能力」を精査する作業を往還しながら、「高次の資質・能力」と個別の資質・能力のそれぞれを洗練させていくことが必要ではないか



- こうしたプロセスで資質・能力の在り方を検討しつつ、それらを表形式で構造化して示すことで、当該教科固有の学習過程の改善に繋げていく上では、学習内容のみならず、主たる教材である教科書の改善も重要。したがって、各WGでは、検定教科書制度の下で民間の教科書発行者が著作・編集することを前提としつつ、「高次の資質・能力」を掴みやすい教科書の在り方についても一定の検討を行う必要があるのではないか
- なお、総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会は、構造化の趣旨の適切な実現の観点から必要な調整を図るとともに、標準授業時数（小中学校）や標準単位数（高校）の検討の基礎とするため、こうした各教科等のプロセスの進捗を確認しながら、必要な調整を図るべきではないか

検討項目⑤ 中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選(3)

令和7年10月14日
総則・評価特別部会 資料1-1より

3. 今後の検討の進め方(案)

- 2. に示した基本的な考え方を踏まえ、今後の検討を以下の通り進めることについてどのように考えるか。

(1)各教科等の目標と「高次の資質・能力」のたたき台の暫定的な整理 (1月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、全教科等・科目について、目標及び見方・考え方、「高次の資質・能力」全体の一覧を修正の余地のあるたたき台として整理
※高等学校の専門教科・科目については科目数が非常に多いため柔軟に対応

(2)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整① (2月中を目途)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において、(1)で作成した一覧について議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(3)個別の資質・能力の検討と「高次の資質・能力」の精査 (3月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討
- ・整理した個別の資質・能力の在り方を踏まえて、「高次の資質・能力」の妥当性を精査し、必要に応じた修正を行う
- ・併せて、「高次の資質・能力」を掴みやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う

(4)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整② (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において(3)のプロセスで修正した「高次の資質・能力」全体の一覧や、当該教科等における表形式による構造化の在り方の議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(5)各教科等WG、総則・評価特別部会における最終調整 (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会での議論などを踏まえ、WGでのまとめに向けた検討を実施
- ・総則・評価特別部会においては、各教科等WGの検討状況を踏まえつつ、各教科等の標準授業時数や標準単位数の在り方を踏まえたまとめの検討

関連資料

1. 基本的な考え方

- 各科目の背景にある学問的な知見に基づく社会的事象に関する概念を理解し、確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、資料や概念に基づき、課題発見・解決できる力や自らの考えを批判的に捉え直す力を養うことによって、民主的で持続可能な社会の創り手を育成する。
- 見やすさや分かりやすさを踏まえた改善を図るため、箇条書き等により、できるだけ簡潔な表記で示すこととする。

2. 柱書

- 教育基本法等の理念を踏まえつつ、骨格は引き続き小中高等学校を通じて共通のものとした上で、発達段階を踏まえた表現としてはどうか。
- 現行の「グローバル化する国際社会」という記載については、近年の状況を踏まえれば、所与の前提となっている一方で、将来社会を見据えた際に、地域社会から国際社会まで（地域・国・世界）含めて、よりよい社会の形成が一層求められていることを踏まえて、記載を見直してはどうか。また、「主体的に生きる」ことについても、より多様な他者と「協働的に」生きることが求められることを踏まえて、あわせて記載を見直してはどうか。その際、教科の目標であるという位置付けを踏まえ、できるだけ端的な表現としてはどうか。

3. 知識及び技能

- 知識及び技能の深い意味理解を促す観点から、社会的事象に関する概念の理解を重視する方向で見直してはどうか。
- その際、ここでの概念の理解とは、学習する知識を統合して到達する理解、すなわち、指導における単元（内容のまとめり）の知識の獲得目標となるものと捉えることとしてはどうか。
- 真偽が定かではない多様な情報が行き交う社会において、調査や諸資料から収集した情報の信ぴょう性を確認することを重視する観点から、発達段階も踏まえ、小中学校においては、「確かな」情報に基づき、「適切かつ」効果的に調べまとめる技能を身に付けること、高等学校では、批判的に情報を扱う視点をより一層重視し、「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付けることとする方向で見直してはどうか。

4. 思考力、判断力、表現力等

- 社会科等の学習過程の特質として、教科目標において「課題を追究したり解決したりする活動」を通して、資質・能力を育成することが明記されている中で、より一層深い学びを具現化する観点から、「自らの考えを批判的に捉え直す力の観点」を追記する方向で見直してはどうか。

5. 学びに向かう力、人間性等

- 「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」、「他者との対話や協働」、「学びの主体的な調整」に関する観点を追記してはどうか。

1. 前回改訂時の整理

- ・ 現行学習指導要領における「見方・考え方」は、前回の改訂において「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会とをつなぐもの」とされた。
- ・ 社会科等においては「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法」と整理された。

2. 今回の改訂に向けた方向性

- ・ 教育課程企画特別部会の論点整理では、「見方・考え方」の側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」（高次の資質・能力）による資質・能力の構造化によって一層具体的に示し、**新たな「見方・考え方」は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していく**こととする方向で検討すべきこととされた。
- ・ 社会科等においても、**新たな「見方・考え方」を、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」として、よりよい社会や幸福な人生を送る上で必要となる資質・能力と関連づけて位置付ける。**

※ その際、社会科等における教科等の学びの本質は、教科等において主として用いられている学術的知見の基礎にある視点や概念、理論を示すことで、教科・科目等の学びの特色を示すものとし、分野・科目ごとに示すこととする。

- ・ 一方、従前の「見方・考え方」で示していた**側面①「各教科等の学びの深まり」を促す事項については、高次の資質・能力の中において構造化の中で内容に即して具体的に示す。**

3. 社会科等における捉え方

- ・ 従前の「見方・考え方」として、小学校社会科では「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」としていた。
このうち、「社会的事象」は社会科が扱う事象や対象を示すものであり、学ぶ**「対象」と位置付けられる。**
また、「位置や空間的な広がり」等については、学ぶ上で着目すべき当該教科等の固有の物事を捉える**「視点」と位置付けられる。**
さらに、「比較・分類したり」等については当該教科等の固有の考え方や判断の仕方として**「方法」と位置付ける**ことができる。
- ・ **新たな「見方・考え方」においては、本質的な意義を端的に示す観点から、「対象」と抽象的な「視点」と「方法」を示すこととし、「高次の資質・能力」においては、具体的な「視点」と「方法」は一体的に記載することとする。**
- ・ その際、従前、社会科等において「見方・考え方」として扱っていた事項は、既に現場においても広く浸透していることを踏まえ、新たに高次の資質・能力に位置付ける「学びの深まり」を示す要素を呼称する際には、継続性を確保する観点から例えば、「**社会的な視点や方法等**」として呼称することとしてはどうか。（その際、「社会的な視点や方法等を働かせて（または「用いて」）」といった表現で表すこととしてはどうか。）

4. 見直し案の考え方

(1) 当該教科で扱う事象や対象

- ・ 現実社会では、社会的事象に加え、「事象」を表象するものとして「言説」も含め、多様な情報が混然一体として存在するものであることから、「**社会的事象や言説**」として整理してはどうか。

※表象としての「言説」はあくまでも思考の契機であり、実際には「事象」との関連の中で扱うべきものであることに留意。

※「事象」と、その事象についての多様な表現である「言説」は、同次元ではないことを前提とする。

(2) 当該教科固有の物事を捉える視点

- ・ 地理、歴史、公民の各分野固有の**抽象的な「視点」**として、高次の資質・能力との違いも踏まえつつ、下表（新たな「見方・考え方」）のとおり整理してはどうか。

(見方・考え方)

●● (当該教科で扱う事象や対象) を●● (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え) 、●● (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

(3) 当該教科固有の考え方や判断の仕方

- ・ 新たな「見方・考え方」では、各教科等の資質・能力が身につく中で、様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生につなげていけること示すこととされている。
- ・ このことに加え、社会科等においては、社会的事象や言説について、様々な視点から課題を考え、確かな根拠に基づいて公正に判断することが重要であることから、新たな「見方・考え方」では、「**よりよい社会の形成**」に向けて課題を「**多面的・多角的**」に考えるとともに、**確かな根拠に基づき、「公正に判断**」することとして整理してはどうか。

※なお、新たな「見方・考え方」は、本質的な意義の中核を示すものであり、学習活動における直接の評価対象になるものではない。

	地理	歴史	公民
新たな「見方・考え方」	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること ※公民は中学校公民的分野
高次の資質・能力	<p><視点> 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容など ※地理教育国際憲章1992.8月において示されている、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域に関わる視点を地理学習の実態に合わせて修正</p> <p><方法> ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載</p>	<p><視点> 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響など</p> <p><方法> ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載</p>	<p><視点> 対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換など ※上記のほか、個人の尊重と法の支配、民主主義など内容によって異なる</p> <p><方法> ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載</p>

現行の記載

- 側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

<地理>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 位置や空間的な広がり
- 地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
 - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
 - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
 - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
 - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

<歴史>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 時期、推移など
- 類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
 - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
 - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
 - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

見直し案

- 新たな「見方・考え方」については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化**。
- 高次の資質・能力については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**こととしてはどうか。

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間関係など
- よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

<視点>

- 位置や分布（**地域の空間的な広がり**に関わる視点）
- 人間生活と自然環境との関係（**地域の環境**に関わる視点）
- 地域間の結び付き（**地域の空間的な広がり、地域間関係**に関わる視点）
- スケール（**地域の空間的な広がり、地域間関係**に関わる視点）
- 変容（**地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間関係**に関わる視点）

<方法>

※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 時系列、推移、類似や差異、**因果関係**や現在とのつながりなど
- よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

<視点>

- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
- 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
- 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
- 背景や原因、結果や影響（**因果関係**に関わる視点）

<方法>

※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ（案） <教科科目・分野一覧>

※第4回WGから修正箇所のみハイライト

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 (地理的分野)	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 (地理総合、地理探究)	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 (歴史的分野)	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 (歴史総合、日本史探究、世界史探究)	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会 (公民的分野)	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 (公共)	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 (倫理)	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民 (政治・経済)	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(見方・考え方)</p> <p>●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。</p> </div>

1. 総則・評価特別部会での議論

総則・評価特別部会においては、中核的な概念等を「高次の資質・能力（※）」と位置付けた上で、以下の通り整理。

- 「知識及び技能の統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を示すことについては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の深まりの可視化を通じて「**深い学び**」を**実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割**を担うもの。
- 各教科等の独自性を生かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「**高次の資質・能力**」を**担保するチェックポイント**として、以下の4つの視点が提示。

- A：教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点
- B：資質・能力の深まりを示す観点
- C：深い学びを実現する単元づくりを助ける観点
- D：分かりやすさ等の観点

※論点整理では「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力、判断力、表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、その後の総則・評価特別部会において、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉として「高次の資質・能力」と呼ぶこととされた。

2. 方向性

左記の考え方を踏まえつつ、社会科等においては以下の方針で**高次の資質・能力として整理**することとしてはどうか。

- 社会科等における高次の資質・能力については、
 - ① 社会科の**目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面**と、
 - ② 個別の学習内容をより深く習得するために**帰納的に導かれる側面**の両面から検討を行う。
- 内容のまとまりを通じて獲得してほしい統合的な理解や総合的な発揮として、「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにするため、**原則、各分野・科目の各内容項目（中項目）ごとに構成する。**
- 上記を踏まえつつ、社会科・地理歴史科・公民科を通した「知識及び技能の統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の**基本的な捉え方**については、以下3.（1）参照。

3. 社会科における高次の資質・能力の基本的な捉え方

（1）社会科等全体の基本的な考え方

- 従前の「見方・考え方」で示していた**側面①「各教科等の学びの深まり」を促す事項については、構造化の中で内容に即して具体的に示すこととされていることから、具体的な視点や方法について示すこととし、**その際、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」は以下の考え方として整理することとしてはどうか。

【知識及び技能に関する統合的な理解】	【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】
<p>○ 単元指導計画において、単元（内容のまとまり）のねらいとなるものであり、思考・判断・表現に関わる学習の過程を通して集積・統合された概念的な知識（概念化された理解）や概念的な枠組みを用いた理解と考えるかどうか。</p>	<p>○ 基本的には、社会的事象を捉える視点や方法（現行の見方・考え方）（*）を総合的に働かせた考察・構想の過程、形成される判断の基準、省察された表現を示したものとして考えるかどうか。</p> <p>* 地理的分野・地理領域科目の例 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容 等</p>

3. 社会科における高次の資質・能力の基本的な捉え方

(2) 各分野等の共通事項

- ・「知識及び技能の統合的な理解」と「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、単元に基づく授業づくりを想定しながら、各分野・科目の内容構成の特質に応じて示すこととし、一定の違いを許容することとしてはどうか。
- ・特に、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、各分野・科目の学習上の特性や系統性も踏まえて、考察・構想・表現の学習過程について段階的に示すものとしてはどうか。
- ・内容項目に該当事項がない場合は、当該資質・能力の深まりを可視化する「知識及び技能の統合的な理解」や「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、記載しないこととしてはどうか。

(3) 各分野等における個別事項

<①小学校>

- ・発達段階も踏まえつつ、各学年の内容のまとめごと示すものとし、その際、同じ枠組みとして整理できる内容項目については、まとめて示すこととしてはどうか。(例：身近な地域や市区町村の様子 など)

<②地理>

- ・地理の具体的な視点については、地理教育国際憲章を踏まえつつ、学校現場のわかりやすさを重視する観点から、「位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容」と整理することとしてはどうか。

<③歴史>

- ・学習の対象となる時代は基本的に共通の視点に基づき、知識及び技能の習得や思考・判断・表現を通した学びを行うことから、一定程度共通の記載とする一方、特に近現代など現代との結び付きを意識した学習を重視する観点も踏まえた記載として整理することとしてはどうか。

<④公民>

- ・基本的な原理や概念枠組みの理解、それをういて活用、分析、考察、課題について構想するという段階的な学習の構造を踏まえ、記載するものとして整理することとしてはどうか。

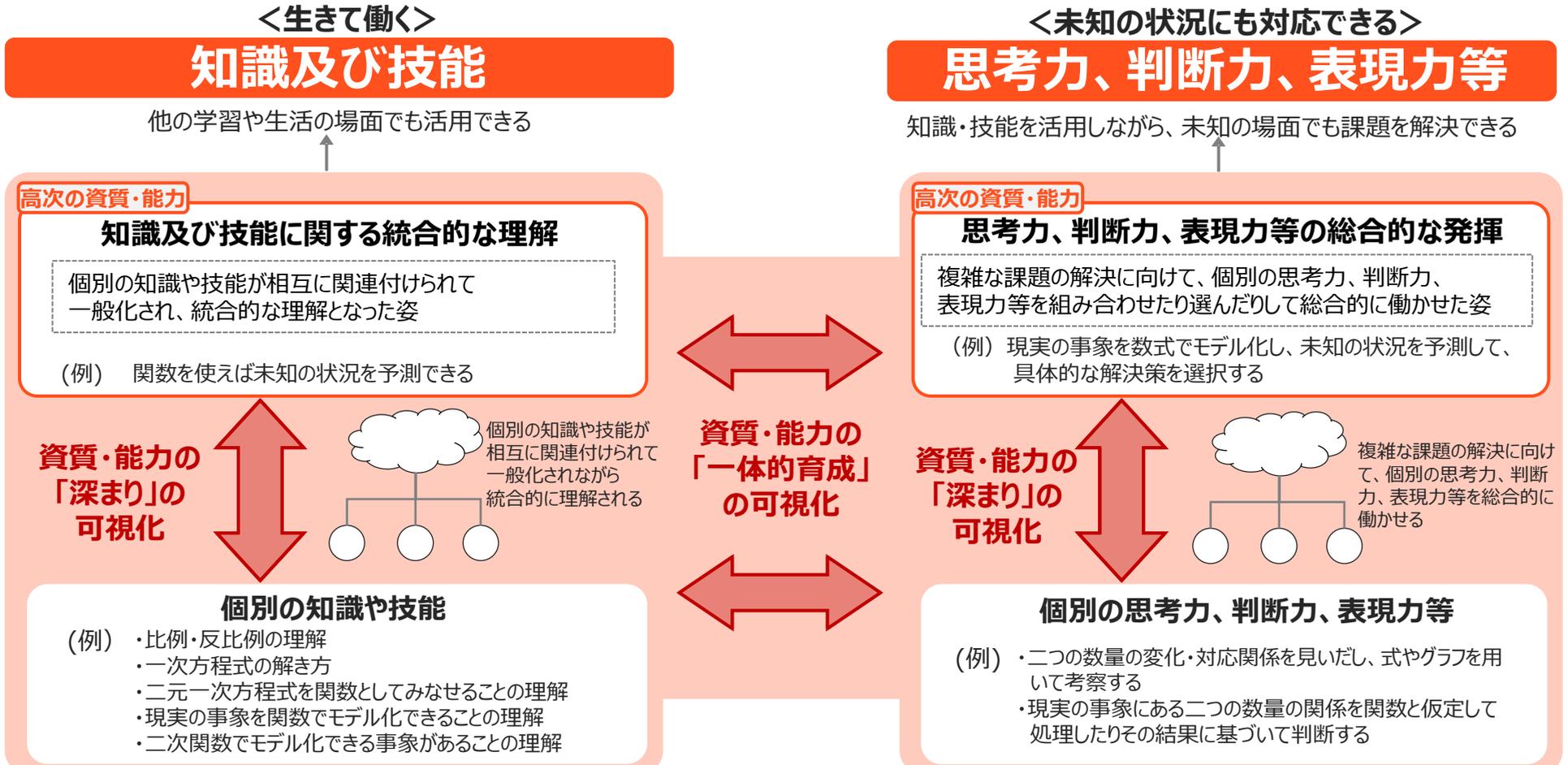
(4) 記載内容の充実に向けた観点

- **小中高の分野・科目間の系統性・体系性**も踏まえた記載内容の整理
- **知識及び技能を統合的に理解した姿をより明確に記載**するための工夫
(内容項目の要約や個別の知識・技能の事項の列記を避ける記載とすることや、「重要」「影響」「変化」「取組」などの実質的に意味するところがより伝わるようにするための工夫)
- 学校現場の教職員や一般の方が読んだ際に**真意がより一層伝わる表現**とするための工夫
(できるだけシンプルな表現とすることや、難解な用語の活用を避けた記載とすることなど)

※ 現在示している高次の資質・能力の案は、現行の内容のまとめを基準に記載していることから、今後、学習内容に関する議論等も踏まえ、見直しを行うことも必要。

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
 - ➔こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



※論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、総則・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」（総称して「高次の資質・能力」）に更新して記載
 ※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

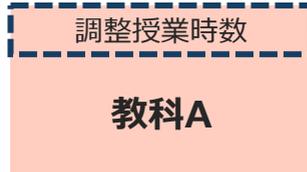
調整授業時数制度の仕組みの方向性（イメージ）

- 1**
- 標準授業時数が35コマ以下の教科等は調整可能な教科等（標準を下回って時数を設定してよい教科等）の対象外
 - 「総合的な学習の時間」も調整の対象
 - 調整後の時数は35コマ以上とする

- 2**
- 標準を下回って設定可能な時数幅の上限は、時数調整対象の教科等の1割以上で検討



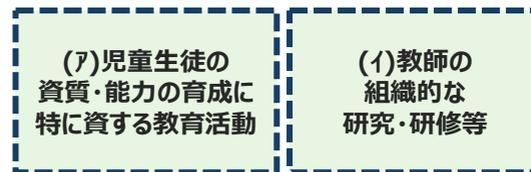
①既存教科等への上乗せ



②教科の新設
※教科B・Cと異なる内容を扱う



③「裁量的な時間」に充当



生み出した調整授業時数の全体から、③「裁量的な時間」に活用する時間を除いた時数で実施可能

年間を通じて計画的に実施しうる上限を設定
年間を通じて複数の取組を計画的に実施しうる上限を設定

既存教科等への上乗せ

要件

なし

上限

調整授業時数の中で活用可能な時数の上限を設定せず、調整授業時数として生み出した時数のうち、「裁量的な時間」として活用する時数を除いた時数で実施可能

新設教科

要件

裁量的な時間（学習枠）の要件に加え、新設教科の目標、育成する資質・能力、学習評価の方法が体系的・系統的に整理されていること等の要件を設定

学習枠

要件

各教科等の内容に該当しない、もしくはいずれか一つの教科等に当てはめるのが困難な学習活動であること等の要件を設定

類型

- ①個に応じた学習過程の充実に資する取組
- ②学習の素地を高める取組
- ③関係性の質を高め、学習の一層の円滑化に特に資する取組
- ④その他地域等の特色を生かした取組

上限

年間を通じて複数の類型に属する取組を実施することも想定し、適切な上限を検討

研究・研修等枠

要件

学校教育目標・教育課程編成に係る基本方針・年間指導計画等に基づく組織的・計画的な取組であること等の要件を設定

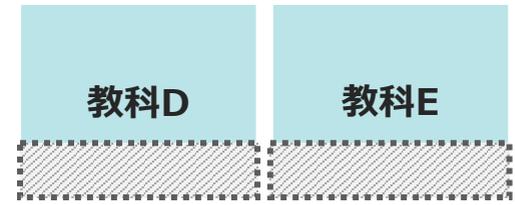
類型

- ①質の高い授業を効果的に実施するための教材研究・授業研究
- ②教師の資質・能力の向上を図るための学校・教育委員会が企画する研修
- ③児童生徒理解の向上など、学習・指導上の課題解決に資する情報共有・協議
- ④学校と地域の連携体制の確保

上限

「学習枠」の上限の内数として設定。年間を通じて計画的に実施することも想定し、適切な上限を検討

現行の教育課程特例校で認められる特例



既存教科の内容の組み替え
※教科DとEの内容を扱う



現在の授業時数特例校・教育課程特例校制度は調整授業時数制度に統合し、各学校の判断により実施可能とする

4

3